

## 女性被害者(40代)の手記

2022年

今年、3年半余り勤務していた会社を辞めた。自分ではパワハラ被害の結果だと思っている。入社時に、サリン事件の被害者で、後遺症があることは告知していた。現に、4ヶ月前に安倍元首相銃撃事件が起きたときは、殺人の異常さとその後の混乱ぶりからフラッシュバックを起こし、動悸とめまいで立ち上がれない状態になってしまったことは、自分でも驚くほどだった。

「職場で差別を受けるから、サリン事件の被害者であることを隠している」と、聞いたことがある。でも、私は逃げたくなかった。

これまでも、症状や感情がコントロールできないことがあったかもしれないが、被害者としての配慮はされていた。でも、急に何かが狂って、その矛先が私に向かってきて不当解雇された。

労働基準監督署に相談に行ったとき、労災のアフターケア制度があることを知った。いままで夢中でやってきたので気付かなかった。サリン事件に遭わなければ、こんなに後遺症に引きずられる人生にはならなかったのに、悔しい。

(2022年11月7日記)

2020年

平凡に幸せに暮らしていても、被害に遭った地下鉄サリン事件が起きた日は一睡もできない。

長年通う眼科で4年前、精密検査をするように言われた。検査したら医師が、「目の奥の黒いシミはなんだろう？見たことがない」と。事件直後、眼底に黒いシミのような異常がみられると言われた記憶があるが、医師にもわからないその症状がいまだに続いているのか。サリンの記憶を無意識に避けていたのか、事件のニュースを見ないように過ごしてきたのに、今さらながらサリンの恐怖を感じた。

今の若者たちに伝えたい事がある。宗教を信じるのは悪いことではないが、オウム真理教は別だ。殺人犯の集団である。巧みな勧誘手口にのらないように気を付けて欲しい。サリン被害のために一生通院する不安と絶望感を想像してほしい。一番辛かったのは中学の同窓会で「もう忘れたら？」と言われたとき。

## 女性被害者(40代)の手記

私は理解してくれる家族や力になってくれている方々に励まされて、一年一年を大切に、自分らしく悔いのないように生きたいと思う。

(2020年9月11日記)